

# 私たちにも、できることがある。

2015年2月26～3月4日；宮城&福島 交流ボランティア

～四日市東日本大震災支援の会 第25回派遣 春休み長期滞在型の活動～

(レンタカー往復の暫定版) 2015年1月18日  
四日市東日本大震災支援の会 代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

震災から4年がたとうとしています。被災された方たちは4回目の寒い冬を送っています。宮城県東松島市では、災害公営住宅への入居が始まり、集団移転も造成工事が進んで土地の引き渡しが始まっています。しかし、仮設住宅でまだまだ生活を続けなければならない高齢の方がたくさんみえます。高齢者比率が高くなり、孤立・引きこもりなどの問題が深刻化することも心配され、まだまだ交流の促進など心の支援が必要とされています。また、福島県葛尾村では、原発事故による避難生活が続いています。除染作業は徐々に進んではいますが、子供のいる家庭を中心に転出が進み、コミュニティーの維持が難しくなっています。支援の会では、大学の長期休暇を利用し、宮城と福島で交流イベントを企画しました。この交流を通し、われわれができる東北支援を考えたいと思います。

## <活動の概要>

### ■集団移転が始まった東松島市の矢本運動公園仮設住宅での交流会

矢本運動公園仮設住宅の自治会の皆さんと、足浴&お茶会の交流イベントを開催します。

### ■原発事故による全村避難中の福島県葛尾村の皆さんが暮らす三春町の仮設住宅での交流会

2014年9月に視察させていただき、お話を聴かせていただいた葛尾村の仮設住宅で、初めての足浴&お茶会の交流イベントを開催します。

### ■10人乗りレンタカーで往復

支援の会の活動が今後少人数で実施する形態に移行することを想定し、レンタカー往復で費用抑制を行います。

## ★申込方法・参加費

**申込**：参加意思を鬼頭にメールで。

★氏名・フリガナ・性別・生年月日・郵便番号・住所・携帯番号・緊急連絡先（会員は不要）

★保護者と参加者本人がサイン・捺印した参加同意書を提出してもらいます。

**参加費**：25,000円

\*参加費は経費を10人で割る計算です。外部資金獲得の場合は返金をします。

## <費用の内訳>

- ・四日市～宮城県の往復移動・現地での移動
- ・食事；活動3日間の昼食、夕食懇親会1回、最終日の宿での朝夕2食
- ・入浴；3回分

**申込先・参加費支払先**

★四日市大学の鬼頭まで（定員10名）

★問合せ先：鬼頭；携帯電話：090-4266-2348

メール：[kito@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:kito@yokkaichi-u.ac.jp)

**キャンセルに対する考え方**

・移動手段・宿泊等の予約取り消しで発生するキャンセル料分実費を負担いただきます。



がんばろう、  
日本。

<スケジュール概要>赤字(各自)=自己負担 支給=参加費に含まれる

2月27日(金)08:00 四日市大学出発

⇒高速自走で宮城方面へ 移動中の昼食(各自)

⇒元気の湯入浴(支給)&夕食(各自)22:00 ラストオーダー

⇒コンビニで翌日朝食を購入(各自) ⇒ 集会所<sup>宿泊</sup>

2月28日(土)09:00 矢本運動公園仮設 交流イベント準備&戸別見守り&告知訪問

⇒昼食は弁当(支給)\*サンショップ or ホットモットで購入

⇒足浴&お茶会

⇒小野さんと上品の郷入浴(支給)&夕食(支給)

⇒コンビニで翌日朝食を購入(各自) ⇒ 集会所<sup>宿泊</sup>

3月1日(日)09:00 矢本運動公園仮設自治会の皆さんと今後の活動について話し合い

⇒被災地視察 ⇒ 昼食は支給

⇒元気の湯で入浴 ⇒ 19:00~夕食「みちのく」懇親会(支給)

⇒コンビニで翌日朝食を購入(各自) ⇒ 集会所<sup>宿泊</sup>

3月2日(月)06:00 福島県葛尾村の仮設住宅(福島県三春町)に移動 ⇒ 9:00 頃に三春町到着

⇒交流イベント準備&戸別見守り&告知訪問 ⇒ 昼食は仮設食堂(支給)

⇒足浴&お茶会 ⇒ 15:00 終了撤収

⇒ひたちなか市 旅館くるみ屋で宿泊

3月3日(火)09:00 出発 ⇒ 四日市方面へ 移動中の昼食(各自)⇒ 16:00 頃到着、解散

#### ■参加費 25,000 円以外に必要な費用の説明

自己負担する食事は以下の 6 食 5000 円ほど。入浴は自己負担なし。嗜好品と土産は自己負担。

- ・2/27 移動中の高速 SA での昼食、元気の湯での夕食
- ・2/28 コンビニ朝食
- ・3/01 コンビニ朝食
- ・3/02 コンビニ朝食
- ・3/03 移動中の高速 SA での昼食

#### <持ち物>

- ・筆記用具(活動中に記録をとる小さなメモ帳は必ず用意してください)
- ・健康保険証・常備薬・歯磨きセット
- ・お金(親戚やお友達などに、たくさん土産を買ってくることも、大きな経済的支援です)
- ・かさ・帽子・携帯充電器(100V 電源用と電池式を持っていくことが望ましい)
- ・エプロン(交流会では、全員が着用します)
- ・ボランティア活動保険証書
- ・バスタオル・マスクなど
- ・入浴用タオル、着替え、ビニール袋(6泊7日分の着替え)
- ・サンダル・エコバッグ(フェリー内や入浴時に使います)

★フェリーには、着替え・身の回り品など、最小限の荷物だけを持ち込むこと(集合段階で分けておくこと)

#### <注意点、守るべきこと>

- ・被災者の気持ちに寄り添い、傷つけるような言動をしないこと
- ・積極的に被災者に対し、家族や友人、お姉さん、お兄さんのように笑顔で接しましょう
- ・家族を失ったり、家を流されたり、被災者が大変な経験をしていることを忘れないで
- ・指示されたことだけでなく、自分で考えて行動しましょう
- ・名前や職業・住所を聞くことは、基本的に NG です。深い絆ができれば、交換も OK です。
- ・写真撮影は深い絆ができてからにしましょう
- ・活動中の写真や映像が、ホームページや報道で使われることがあります。了承ください。